

第2回結核ゆかりの地ツアー — 保生園（新山手病院） —



【記憶遺産】

「負の世界遺産」というものがある。広島原爆ドーム、ユダヤ人のアウシュビッツ収容所、奴隷貿易の跡地など、人類が犯したあやまちを再び繰り返さないために、忘れてはならない記憶遺産としての価値がある。

「キョセ」を世界（保健）文化遺産に、という動きが起きているやに聞く。負の遺産とは意味合いが異なるが、人類とともに古くからあって、人類に災いを及ぼし続けてきた結核との闘いの歴史を一堂に集めて記憶しておくことは、非常に意義のあることを言うを待たない。

わが国でも、「亡国病」などと称されるほど、無数の若者が結核によって打ち斃された。結核との闘いは勝ち戦に終わったかのように見えるが、まだ敵はしぶとくはびこっている。世界規模で見ても、未だに三大感染症のひとつであり続けている。

そうした現状を振り返ってみても、昨年からはまった「結核ゆかりの地ツアー」は記憶遺産への手がかりとして意味は深い。



保生会（保生園退院患者の会）
会長 大場 昇

【第1部 保生園の跡地を歩く】

5月19日（火）午後1時、新山手病院に隣接するグリューネスハイム新山手に60名ほどが集合。ツアーの主催者である「ストップ結核パートナーシップ日本」の森代表理事の挨拶の後、保生園の卒業生であるほくがガイドを依頼されていたので早速出発。心配された雨はあがったが足もとは悪いので、まず病院の守り神である藤の宮に参り、新山手病院の吉田事務部長に代表していただき、全員一緒に安全祈願をする。この小さな社はトトロにも登場する。（写真1）

ちょっと登ると霊安所跡。解剖台の置かれたコンクリート造りの部分と、奥の6畳の部屋に小さな祭壇があった。霊柩車は病院の中を通らず、正門をくぐらず裏口退院ができるように設計された。息を引き取った患者を霊安所に担ぎ上げた急な坂道の天国街道を、逆に下りると病棟跡地が広がる。だが建物や物は何もなく、礎石や廊下跡の遺構などかすかな断片が残るだけだ。

結核との戦場跡は、今は都立の公園になって家族連れなどでにぎわう。桜や紅葉などの大木の新緑が滴るようにまぶしく、草は繁り、兵(?)どもが夢の跡、の観。頭上高く鳴くホトトギスの声が、「夏は来ぬ」と告げる。「素晴らしい環境の療養所だったのね」という声もあがる。

アメリカとの戦争中の空襲警報が鳴ると、看護婦が動けない患者をおぶって逃げ込んだ防空壕跡。競輪に通った脱柵の兵達の抜け道も残る。社会復帰の訓練をした外気舎や作業療法に勤しんだ作業舎跡。注射針の使いまわしの頃で、切れなくなった注射針を研ぐのが一番の仕事だったと聞く。自分が研いだ針で肝炎から死に至った当人もいたろう。当時の知見とはいえ、皮肉な悲劇ではある。

埼玉との県境の尾根道に上がり、白十字との間の旧鎌倉街道を下って帰路に就く。大勢の参加者のツ

アーのため、事前の実地予測より超過し1時間20分を要したが、高齢者も少なくないなか、また起伏の多い地形にも関わらず、皆さん無事に下山できて何よりだった。片肺のぼくには説明をしながら、10階建てのビルに相当する高低差30メートルの上り下りは負荷が大だったが、恙なく終わりありがたい次第。祝着至極。「貴重な場に行けてよかった」と語る方も。

【第2部 講演】

休憩をはさんで、後半はグリュースハイム新山手の集会室がほぼ満席になる約70名が4人の講演と映画に聞き入り、見入った。

まず、この保生園で療養した新山手病院の小形医師が、酸素の管を鼻に入れた姿のもの静かな口調で奏でる療養体験の物語は、聞く者の心に沁み入った。なかでも、「小学生の私の目の前で妹が咯血し息絶えた経験が、私を医師にさせた」とのお話は臨場感があり哀切きわまった。参加していた読売新聞の論説委員の女性が、講演後時間をかけて先生に聞き取りをしていた。

次に結核予防会顧問の島尾先生。保生園の沿革や

結核対策の歴史など、大学の授業を思わせるような凝縮された密度の濃い内容で、しかもおよそ40分間立ったままでよどみなく弁じ、卒寿を過ぎてなおの壮健ぶりに感服。予防会のウオーキング・ディクショナリーたる先生は医学界の第2の日野原だ、と私はかねて尊崇している。

新山手病院の江里口院長はリニアックやサルコーマなど病院の特色を明快に説明。副院長の井上先生は新山手病院の結核治療の現状を語るのに、トトロの草壁一家の母親が入院したとされる昭和28年を想定する斬新な切り口で現場の臨床医の今日を示し、多彩な資料とともに理解を得やすかった。

ぼくは稀と言われる退院患者の会「保生会」が何ゆえに保生園にだけ誕生したのか考察し、「トトロにも出てくるあの木造の病棟を一棟復元して、記憶遺産としての資料館にできないものか」とご提案を申し上げる。

最後に、リハビリ発祥の地といえる保生園の昭和30年代の術後の実際のリハビリの様を写した貴重な映画「再起への道」を上映。日本にリハビリを導入した立役者たる島尾先生の解説もあり、観る者に深い懐古の念と感慨を催させた。

終了は予定時刻を越えてしまったが、「勉強になった」「仕事に生かしたい」などの感想があり充実の会となった。関係者の皆様のご尽力の賜物だ。さて、3回目の来年はいずこへ？



写真1 病院の守り神「藤の宮」



ツアーには60名ほどの方が参加された



自らの保生園での療養生活を講演される小形医師



昭和30年代実際のリハビリの様を写した映画「再起への道」

「結核予防映画アーカイヴ」の紹介

結核予防会

専務理事 竹下 隆夫

結核予防会は結核の蔓延が深刻な昭和14（1939）年に設立され、平成26（2014）年に創立75周年を迎えました。この間、結核研究を基礎として、結核制圧のため全都道府県にわたる組織をあげて結核予防活動を推進してきましたが、結核制圧への道のりは未だ半ばで、予防・治療の技術や研究とともに、かつて多くの若者の命を奪った結核という感染症の実態を次世代・次々世代へ継承していかなければなりません。

このため、75周年記念事業の一つとして、過去に制作した結核予防映画をハイビジョンデジタルリマスターし、結核予防会のホームページ上で「結核予防映画アーカイヴ」と銘打ち、日本語版と英語字幕版でご紹介していますので、是非ともご覧いただきたいと存じます。

①**お母さんの幸福**（1958（昭和33）年／48分／モノクロ）戦後10数年を経てもなお、結核が日本で死亡順位の上位を占めていた状況のなかで、発病したお母さんを家族でささえるホームドラマ。家庭の主婦とその家族に結核予防（家庭内感染）を啓発する目的で制作された作品。

②**小さな仲間**（1958（昭和33）年／50分／モノクロ）子どもの結核のほとんどが大人から感染していたことから（当時の結核患者は全国で約49万人）、子どもを結核から守ることを訴える児童劇映画として制作された作品。

③**たくまשי母親たち**（1959（昭和34）年／48分／モノクロ／文部省選定、厚生省推薦、東京都教育委員会選定、国民文化会議推薦、第4回教育映画コンクール銀賞）地域の子供の健康を守る母親グループ「母子会」の結成に向けて頑張る母親たちの活動を描いたドラマ。集団検診が結核を早期に発見し、病気の進行や蔓延を予防し、日本の予防医学に大きな役割を果たしてきたことが改めてよく理解できる作品。

④**再起への道**（1959（昭和34）年／21分／モノクロ／文部省選定 厚生省監修 企画：財団法人結核予防会）肋骨を切除していた肺結核外科療法の全盛時代に、肺機能訓練療法として日本に最初に導入された理学療法が、実際に結核予防会の療養所

保生園で胸部手術の前後に応用されていたドキュメンタリー作品。

⑤**生きぬく**（1961（昭和36）年／30分／モノクロ／文部省選定、東京都教育委員会推薦 企画：財団法人結核予防会）結核患者の多かった昭和30年代、治癒しても社会復帰に際して就職問題でどれ程苦しんでいたか、就職差別や偏見を受ける結核回復者に対する理解を促すドラマ作品。

⑥**小さな灯を守る人びと**（1963（昭和38）年／30分／モノクロ／文部省選定 企画：財団法人結核予防会）前夫を結核で亡くした主婦が、子どもの命を守るため婦人会の結核予防活動に参加していくドラマで、モデルは全県組織として日本初の結核予防婦人会を立ち上げた長野県。

⑦**サツパと老人**（1966（昭和41）年／36分モノクロ／企画：財団法人結核予防会）三陸の貧しい漁村でサツパと呼ばれる小舟を操る老漁師が結核を愛らしい孫娘にうつし、医師との葛藤を経て受診を決意するに至るドキュメンタリー風ドラマ。

⑧**家族のころ**（1968（昭和43）年／32分／モノクロ／文部省選定、東京都教育映画コンクール金賞 企画：財団法人結核予防会）家族の生活を思って診察を受けない仕事一徹の父親に、家族が一致団結して検診を勧めるドラマ作品。

⑨**結核とのたたかいは続いている**（1973（昭和48）年／30分／カラー／文部省選定 監修・指導：結核予防会結核研究所 企画：財団法人結核予防会）結核菌がしぶとい生命力を持つことや病巣が広がる様子をミクロの映像で明らかにし、日本語、英語、インドネシア語、タイ語、ビルマ語、アラビア語、ネパール語版が作成され、世界中で結核予防の啓蒙のため活用された作品。

⑩**よみがえる母のうたーインドネシアの結核予防ー**（1984（昭和59）年／記録形式／34分／カラー／厚生省推薦、文部省選定、企画：財団法人結核予防会）偏見が根強い途上国の正しい治療や予防が難しい村で、一人の母親が病気を克服していく姿を通して結核予防の大切さを訴えた作品。



①お母さんの幸福



⑥小さな灯をまもる人びと



⑩よみがえる母のうたーインドネシアの結核予防ー